

2 学校関係者評価

<評定> 4点…適切な評価である 3点…ほぼ適切な評価である  
2点…やや甘い評価である 1点…非常に甘い評価である

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	○成果と△課題	改善策	学校関係者評価		
						努力指標	成果指標	評議員からのコメント
確かな学力の向上	基礎・基本を大切に、生徒が主体的に学ぶ授業を行い、思考力・判断力・表現力を身に付けた生徒を育成する	個に応じた指導を充実し、基礎・基本を確実に身に付けさせる	自教科で授業スタイルを確立し、1時間の流れを理解しわかりやすい授業を展開する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○めあてとふりかえりを明確にする教員が増えた。</li> <li>○机間指導を増やし、個に応じた指導をするようになった。</li> <li>○板書の工夫や授業展開をパターン化し、わかりやすい授業を行うようになった。(意味調べ、漢字練習、計算テスト)</li> <li>○ワークシートを利用し、基礎基本の定着を図った。</li> </ul> <p>△ふりかえりの時間を十分確保することができなかった。 △能力差が大きく、個に対応することが難しい。 △個々の能力に応じた基礎学力の定着が図られなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教え込み型授業スタイルから脱却する。</li> <li>・小テストを取り入れ、遅れを取っている生徒への個別指導を行う。</li> <li>・既習事項を取り入れた授業を展開する。</li> <li>・補習プリントを用意し、定着を図る。</li> <li>・ふりかえりの時間を確保するため、1時間の授業計画通りに進める。</li> <li>・全教科で「めあて」「ふりかえり」を徹底する。</li> </ul>	3.83	3.75	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目当てと振り返りを行うようにしているという点で、思考を大事にしているなと感じた。</li> <li>・毎時間違う先生に教わっても同じ指導観に立って指導されるというのは、安心感がある。</li> <li>・言葉で考える、言葉で伝えることを大事にしたい。</li> </ul>
		課題を解決するために必要な、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。	自教科の授業で、考える時間を増やし、思考力・判断力・表現力を養い、主体的に伝え合う授業を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自ら考える時間や友達と話し合う場面を設定することを意識する教員が増えた。</li> <li>○思考力・判断力・表現力を養うためにグループ活動を実施している。(深い学びへ)</li> <li>○答える際に必ず理由を述べさせ、定着を図らせている。</li> </ul> <p>△自分の考えをうまくまとめたり、相手に分かるように伝える練習が必要である。 △個別指導に時間を割き基礎・基本の習熟にとどまった。 △考える時間を十分にとっていない。 △生徒の実態にそぐわない発問になることがある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しいスタイルの授業への転換にトライする。</li> <li>・話し合い活動の時間をあらかじめ入れて授業計画を立てる。</li> <li>・その課題に向けた事前の準備と生徒それぞれの実態把握を入念に行う。特に、授業始めの説明、机間指導時の言葉がけには細心の注意を払う。</li> <li>・考える時間の中で、個別にアドバイスやヒントカードを活用し、思考力、判断力・表現力を育成していく。</li> <li>・ALTを活用し、実践的なコミュニケーション能力や表現力を高めていく。</li> <li>・日常生活とつながりを感じられる授業展開を図る。</li> </ul>	3.75	3.75	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中だけでは発表場面が少ないと思うので、日直などになったときに3分間スピーチなどを輪番で行い、人の前で発表することを習慣付けていくのはどうか。</li> <li>・新聞を活用した授業を行うことで考える力がつくのではないか。</li> </ul>
		読書活動を推進し、読書習慣を確立する	朝の時間を活用し、読書に慣れ親しませる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝読書を毎日行ったことで、読書に親しむ生徒が増えた。</li> <li>○読書の習慣が身に付いてきた。</li> <li>○担任も副担任もついて読書できるようになったため、10分間、落ち着いて読書に取り組むことができるようになった。</li> <li>○休み時間も読書をする生徒が増えた。</li> </ul> <p>△ジャンルが偏っている生徒がいる。 △読書については、個人差が大きい。取りかかるまでに時間がかかったり、朝読書の時間以外に本を読まない生徒もいる。 △図書室利用が少ない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の時間を活用して、様々な本にふれる機会を設定する。</li> <li>・図書室を活用した調べ学習を年間指導計画や単元計画に組み込む。</li> <li>・図書だよりで、貸出冊数など情報を提供する。</li> <li>・教員からおすすめの本を紹介したり、生徒自身に紹介させ、興味をもたせる。</li> <li>・図書委員会等で読書旬間を設ける。</li> </ul>	3.83	3.83	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書が定着していて良い。</li> <li>・朝読書の時間以外で全く本を読んでいる生徒もいるようなので、良い本に触れさせてあげたい。</li> <li>・図書室は充実してきているので授業でもどんどん活用して欲しい。</li> </ul>

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	○成果と△課題	改善策	学校関係者評価		
						努力指標	成果指標	評議員からのコメント
豊かな心の育成	自他の生命を尊重し、互いに認め合える豊かな心を育成する	笑顔で明るいあいさつと返事ができ、温かい言葉遣いのできる態度を育成する	教職員が明るいあいさつを励行するとともに、あいさつ、言葉遣いの指導を全校で重点的に行う	<p>○こちらからあいさつすると、元気よくあいさつを返し、登校時もあいさつをする生徒が増えた。</p> <p>○第一学年で『ふさわしい言葉』と『ふさわしくない言葉』を話し合い、意識するようになった。</p> <p>○丁寧な言葉遣いをしよう心がける生徒が増えた。</p> <p>△あいさつが当たり前に行える生徒と、全く意識がない生徒に分かれている。(自分から進んであいさつできる生徒が少ない)</p> <p>△来校者に対して、あいさつの声が小さい生徒がいる。</p> <p>△まだ友だちに対して乱暴な言葉がでる生徒がいる。</p> <p>△目上の人に対する言葉使いや、担任以外の教員にも明るくあいさつすることが目標である。</p> <p>△流行りの言葉を取り入れ話している生徒がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会が先頭に立って、あいさつ運動を実施し盛り上げる。</li> <li>・道徳の時間や毎日の朝学活や終学活を通して、あいさつの大切さや言葉使いの指導を行う。</li> <li>・担任以外の教員や主事さんなど、校内で見かけた人に、自分からあいさつができるよう指導する。</li> <li>・教員同士で指導のラインを改めて共通理解していく。</li> <li>・言葉遣いが気になる生徒はその都度指導していく。</li> <li>・人権教育プログラムの『あなたの人権感覚』を活用し、常に意識して生徒と接する。</li> </ul>	3.75	3.75	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のスポーツチームでも他校と比べて挨拶ができていない。家でも言われてないらしい。</li> <li>・挨拶や言葉遣いなどは、身に付いたものが自然と出るものなので家庭でのしつけの部分が多いのではないかと。</li> <li>・先生は服装や態度の面で生徒の見本となしてほしい。</li> <li>・本校の生徒の挨拶は外部から来たものとしてはよく挨拶している印象の方が強い。</li> <li>・全体揃っての立礼などはとても礼儀正しく、教育の成果の現れだと思う。</li> </ul>
		いじめを撲滅するために、アンテナを高くし、いじめを早期発見し、早期解決する	ふれあい月間における調査や普段の生活をj通して実態把握するとともにSCおよび心のふれあい相談員と連携を図り対処する	<p>○毎週行っている特別支援教育校内委員会で、気になることを報告し合い共有することで、おおきなトラブルは起こっていない。</p> <p>○ふれあい月間に行う調査で、気になる生徒に対して個別に対応することができた。</p> <p>○SCや心のふれあい相談員、SSWrとの連携により、いじめを未然に防ぐことができたケースがある。</p> <p>○いじめアンケートや生活アンケートを活用し、未然防止、早期発見することができた。</p> <p>○生徒のそばにいる時間を増やし、様子を観察している。</p> <p>○SNSルールの更新ができた。</p> <p>△自己中心的で友達への思いやりに欠ける言動や態度をとる生徒がいる。</p> <p>△友達とうまく関われない生徒がいる。</p> <p>△遊びの延長からトラブルに発展することがある。</p> <p>△SNS、オンラインゲーム等でのトラブルがある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もし、いじめに気づいたときはすぐに指導するとともに自らの行動を振り返らせる。</li> <li>・友達の良いところや褒めたいところを発表する場面を設定する。</li> <li>・心配な生徒に関しては積極的にSCや心のふれあい相談員に相談し連携を図る。</li> <li>・個別のかかわりを重点に置き、今後もアンテナを張っていく。</li> <li>・特別支援コーディネーターを中心に外部と連携を図る。</li> <li>・生活指導部を中心に指示系統をはっきりさせる。</li> <li>・常に全校体制、学年体制で取り組む。</li> <li>・小学校との連携を密に図る。</li> </ul>	3.75	3.83	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめについては周りで見ている子に止めたり、報告したりできるようになってほしい。</li> <li>・情報モラルについては、最近では子供でもスマホでレジの支払いをしている光景を見ることがある。</li> <li>・家での支払いの取り決めがどうなっているのか心配だ。</li> </ul>
健康な生活	安全な環境を整え、体力の向上、健康の維持増進を図るとともに、オリンピック、パラリンピック教育を推進する	体育の時間、体育的行事、体育朝会、休み時間等を活用し、生徒の運動能力、体力向上を図る	<p>新体力テストの結果を分析し色々な場面で改善するとともに、トップアスリートを招聘し、目標に向かって努力する生徒を育てる</p>	<p>○準備運動に新体力テストでの課題となった運動を取り入れ、克服できる生徒が増えた。</p> <p>○夢先生やヨーコゼッターランド先生の講演会などに生徒は進んで参加することができ、関心が高まった。</p> <p>○運動会などの行事に一生懸命取り組んだ。</p> <p>○個々の実態に合わせて課題を設定し、体力向上を図ることができた。</p> <p>○部活動も活発で、結果も出ている。</p> <p>△運動能力の個人差が大きい。</p> <p>△寒い時期に外遊びをしない生徒がいる。</p> <p>△オリパラ教育では事前・事後学習に十分な時間を取ることができなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もトップアスリートを招聘し一緒に活動することで、運動の楽しさを味わわせる。(全学年)</li> <li>・トップアスリートだけでなく、スポーツを支える様々な分野の方に来ていただく。</li> <li>・オリンピック・パラリンピック教育を今後も計画的に進め興味関心をもたせていく。</li> <li>・寒い時期でも教員が声がけをして、外遊びを行う。</li> <li>・準備運動や新体力テストの課題と精通する運動を部分的に取り入れて継続的にやっていく。</li> <li>・部活動(運動部)のさらなる充実を図る。(積極的に入部を進める)</li> <li>・小学校低学年からの遊びの中での巧緻性、柔軟性の継続指導を依頼する。</li> </ul>	3.75	3.83	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校では毎年、ボール投げ、長座体前屈、柔軟性の数値が低いのが課題である。</li> <li>・小学校では昔遊びを取り入れたり、コーディネーショントレーニングをして神経系の発達を促して運動できる素地を作っていく。</li> </ul>

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	○成果と△課題	改善策	学校関係者評価		
						努力指標	成果指標	評議員からのコメント
健康な生活	安全な環境を整え、体力の向上、健康の維持増進を図るとともに、オリンピック、パラリンピック教育を推進する	食育指導を充実させ、食や自らの健康に対する意識を高め、健康の維持増進のための実践力を身に付ける	食に関する指導計画に基づき、給食指導を充実させる	<p>○給食の準備や片付けに関しては、整然とできている。</p> <p>○所々で食と健康の重要性を話している。</p> <p>○給食メニューが工夫され、家庭では食べない料理が提供された。</p> <p>○毎日の栄養士からの食に関するコラムを活用して、食に興味をもたせることができた。</p> <p>○盛る量を工夫して、昨年より残菜が減った。</p> <p>○食に関する指導計画に基づき、関係機関と協力することができた。</p> <p>△食べるのが遅くて時間内に終わらない生徒がいる。</p> <p>△好き嫌いの激しい生徒がいる。また、ダイエットを意識して食事を減らしている生徒もいる。</p> <p>△野菜が不人気で、残してしまう生徒が多い。</p> <p>△食への関心が高まっていない生徒もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>好き嫌いが多い生徒には、引き続き少しでも食べるという指導を根気強く続ける。</li> <li>・時間内に食べられる量を盛りつける。</li> <li>・給食の時間を意識して食べるように指導する。</li> <li>・食育指導を計画的に進め、食育担当教員と学校栄養補助員と家庭科講師が連携していく必要がある。</li> <li>・生産者の思いを伝え、食に感謝する気持ちを継続指導していく。</li> <li>・社会科の授業の中で農業分野で自給率や地産地消の話を取り入れ、食の重要性を伝えていく。</li> <li>・オリパラ教育の一環として、アスリートの食事も取り上げてみるとよい。</li> </ul>	3.83	3.75	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食の好き嫌いなども親を見て育っている。先生たちの仕事を増やすようになってしまうが、機会を見つけて保護者の教育も必要ではないか。</li> <li>・小学校にも下の子が通っているが家に帰って給食の話で美味しかったというような話をよくしている。</li> <li>・親子給食で美味しい献立でよい。</li> <li>・家庭でも参考にして似たような食事を作っている。</li> </ul>

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	○成果と△課題	改善策	学校関係者評価		
						努力指標	成果指標	評議員からのコメント
開かれた学校	家庭、地域に信頼される、開かれた学校づくりを推進する	HPやたより、年12回の学校公開などで教育活動の様子などを伝える	A4版程度の学年、学級、委員会だよりで学年、学級や授業の様子を知らせる	<p>○HPを毎日アップし、学校の様子、児童の様子を伝えることができた。</p> <p>○学年だよりは毎週定期的に発行することで、保護者の学年に対する理解が深り、喜びの声をいただいた。</p> <p>○オリパラ関連の内容を学年だよりなどで生徒・保護者に発信することができた。</p> <p>○部活動の結果をこまめにHPIにアップすることができた。</p> <p>△HPを見てももらえない家庭がある。</p> <p>△生徒から保護者へ学年だよりが渡っていないことがある。</p> <p>△月1回学校公開を行っているが、参観者が少ない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者に生徒の様子が伝わるように積極的かつ継続的に発行していく。</li> <li>・輪番制でアップするなど、無理なく続けて行く。</li> <li>・連絡だけににならないよう、内容を工夫していきたい。</li> <li>・特別号などを作成し、行事後すぐに成果を発信できるようにする。</li> <li>・生徒に学年通信の中身を伝え、保護者に行き渡るような指導を行う。</li> <li>・学校公開では情報提供を増やし、参観しやすい雰囲気をつくる。</li> <li>・地域行事に参加するなど、家庭だけでなく、地域とのつながりも深めていく。</li> </ul>	3.83	3.75	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページが毎日上がっていてありがたい。</li> <li>・部活の結果だけでなく、授業の様子も載っているので保護者としてよくわかってよい。</li> <li>・地域の方にも見てもらえるようなPRがあるとよい。</li> <li>・学校公開に来る保護者が少ないが、子供から来ないと言われる家庭もあるようだ。</li> </ul>

### 3 評価結果の公表

自己評価、学校関係者評価については、ホームページで公表する。教育活動アンケート(生徒、保護者、教員)については、すでに印刷物で公表している。

### 4 次年度の学校改善へ向けた校長の見解

・確かな学力の向上、豊かな心の育成、健康な生活、開かれた学校など家庭・地域との連携が重要である。家庭や地域への啓発を工夫、強化することが改善のための一つの鍵になる。具体的な方策を発信し改善を図っていく。

・伝統ある本校は地域の期待も大きい。期待に応えるためにも今年度の反省をもとに考えた改善策を、まずは確実に実行していく。PDCAサイクルを活かして、年度途中でも改善策の妥当性を吟味し、必要に応じて見直しをしていく。学校経営計画等の視覚化、自己申告や授業観察の活用等行い、教員の改善に対する意識を高めるとともに、よい実践の共有を進める。